

「情報通信技術教育者合同会議2012」基調講演

# ICT利活用の進展と期待される人材像

2012年10月13日

富士通株式会社

技術顧問 石田 一雄

## ■ ICTを取り巻く環境

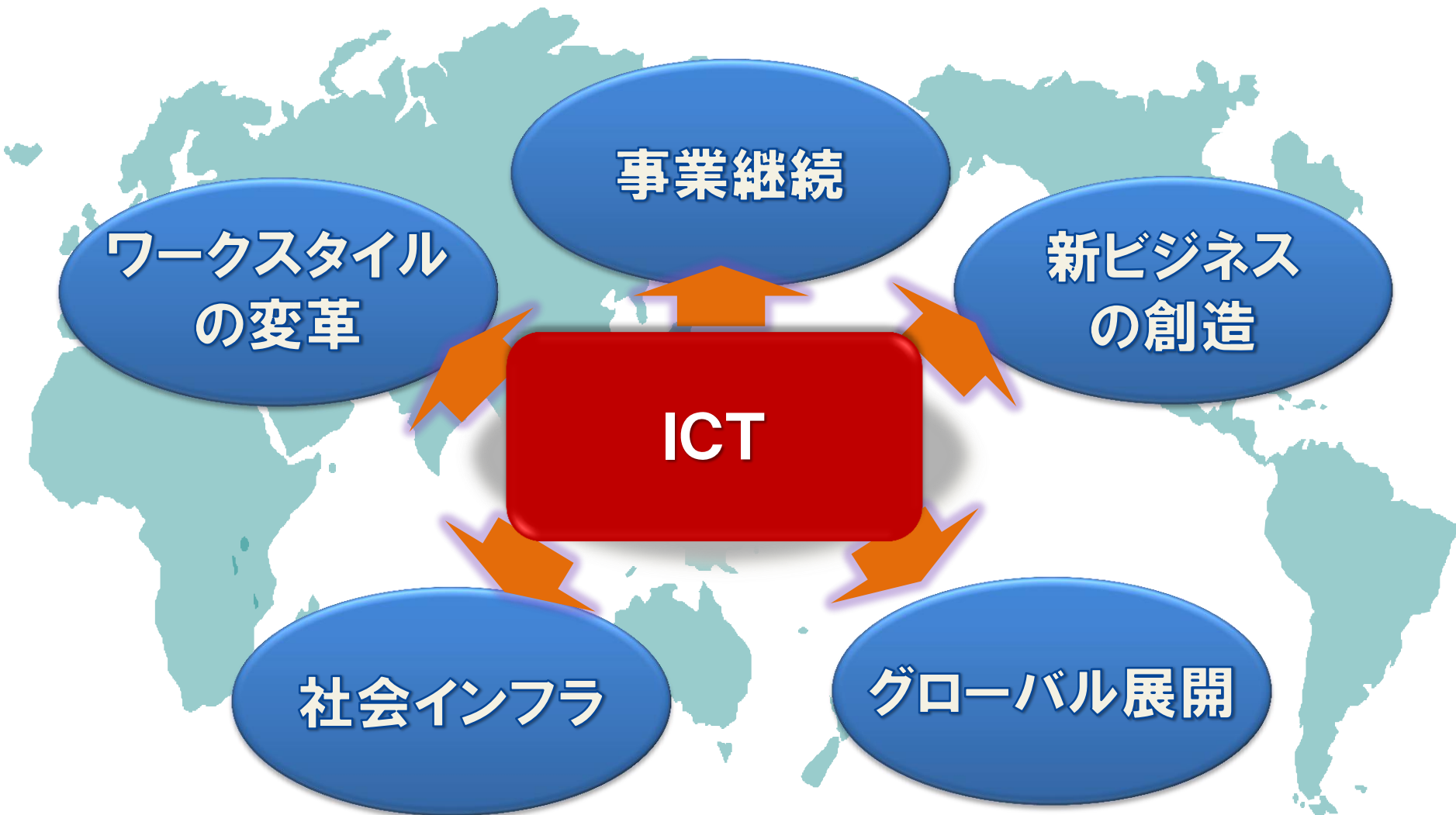
### ■ 富士通の人材育成

### ■ これからのICT人材像

- クラウドコンピューティング
- スマートデバイス
- ビッグデータ
- ソーシャルサイエンス

# お客様の要求の変化

- お客様のビジネスイノベーションへの貢献が求められる



# クラウドをキーとしたICTの広がり

- ICTは、広い意味で社会のインフラとなっている。クラウドをキーとしてICTの利活用が広がる中で、新しい分野への適用が進展

## クラウド適用の領域

既存ICT分野

新ICT利活用分野

変革領域

起点領域

応用領域

バック  
(基幹システム)

サイロ型

クラウド型

フロント(現場)

共通業務

メール/  
コミュニケーション  
など

現場業務

CRM/SFA  
/保守  
など

新規事業

Web販売  
/グローバル  
など

社会インフラ

食・農業

エネルギー

福祉・医療

交通

どうぶつ

住民サービス

お客様

情報システム 部門

事業部門 / 企画部門

適用  
クラウド

プライベートクラウド中心

Hybrid  
cloud

パブリッククラウド中心

# 【事例】ICT農業への取り組み

## ■ 経験や技能をICTで共有し収益を拡大

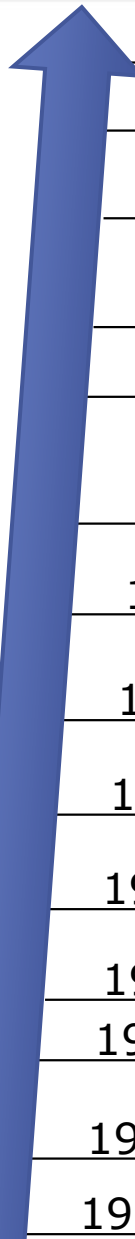


## ■ ICTを取り巻く環境

### ■ 富士通の人材育成

## ■ これからのICT人材像

# 富士通の歩み

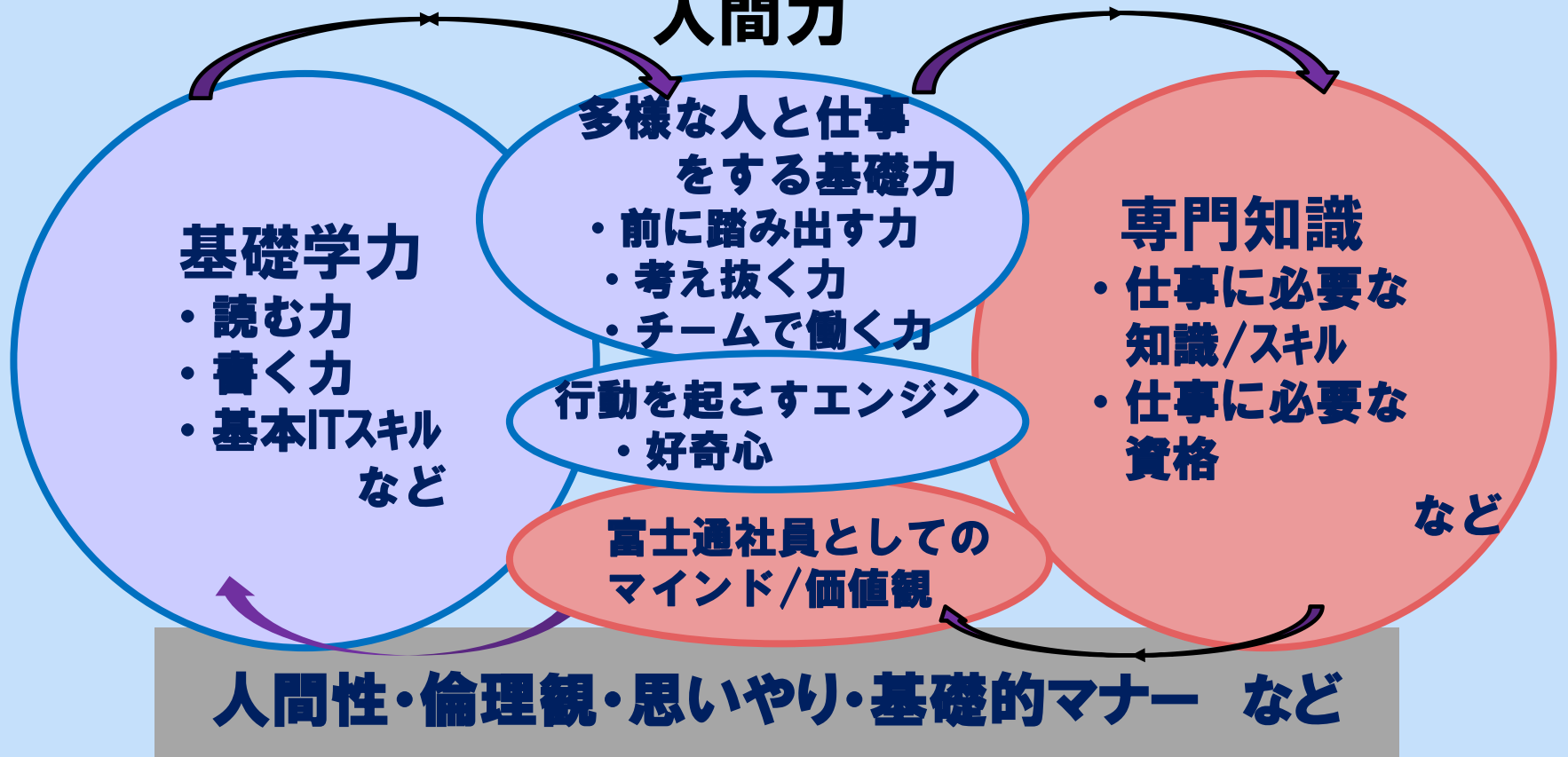
- 
- 2011 **京速コンピュータ「京」が世界1位に**
  - 2010 **中長期ビジョンとして「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティの実現」を発表**
  - 2004 **サン・マイクロシステムズ、マイクロソフト、シスコをはじめとするグローバルパートナーとの戦略提携を加速**
  - 2002 **欧州、北米のサービス事業を再編、「富士通サービス」「富士通コンサルティング」を設立**
  - 2001 **ブロードバンドインターネットの新しいステージに向け、事業戦略「Everything on the Internet」を発表**
  - 1999 **インターネットサービスプロバイダ「@nifty」が誕生**
  - 1995 **アウトソーシングサービスの拠点として「富士通館林システムセンタ」を開設**
  - 1985 **富士通VANサービス「FENICS」の販売を開始**
  - 1980 **当社初のビジネスパーソナルコンピュータ「FACOM 9450」発表**
  - 1976 **「FACOM M-190」IBM互換アーキテクチャFACOM Mシリーズ最初の機種**
  - 1968 **大型汎用機「FACOM 230-60」発表**
  - 1967 **「富士通株式会社」に社名を変更**
  - 1954 **FACOM100:国内初のリレー式自動計算機**
  - 1935 **「富士通信機製造株式会社」設立**



# 富士通が求めている人材とは

- 学生の皆様には、特に「基礎学力」と「好奇心」「多様な人と仕事をする基礎力」を期待
- 「富士通社員としてのマインド・価値観の醸成」と「仕事に必要な専門知識の修得」は、入社後計画的に実施

## 人間力



**1. プロフェッショナルへの計画的な育成**

**2. グローバルで活躍できる人材の育成**

**3. 新たな価値を創出できる人材の育成**

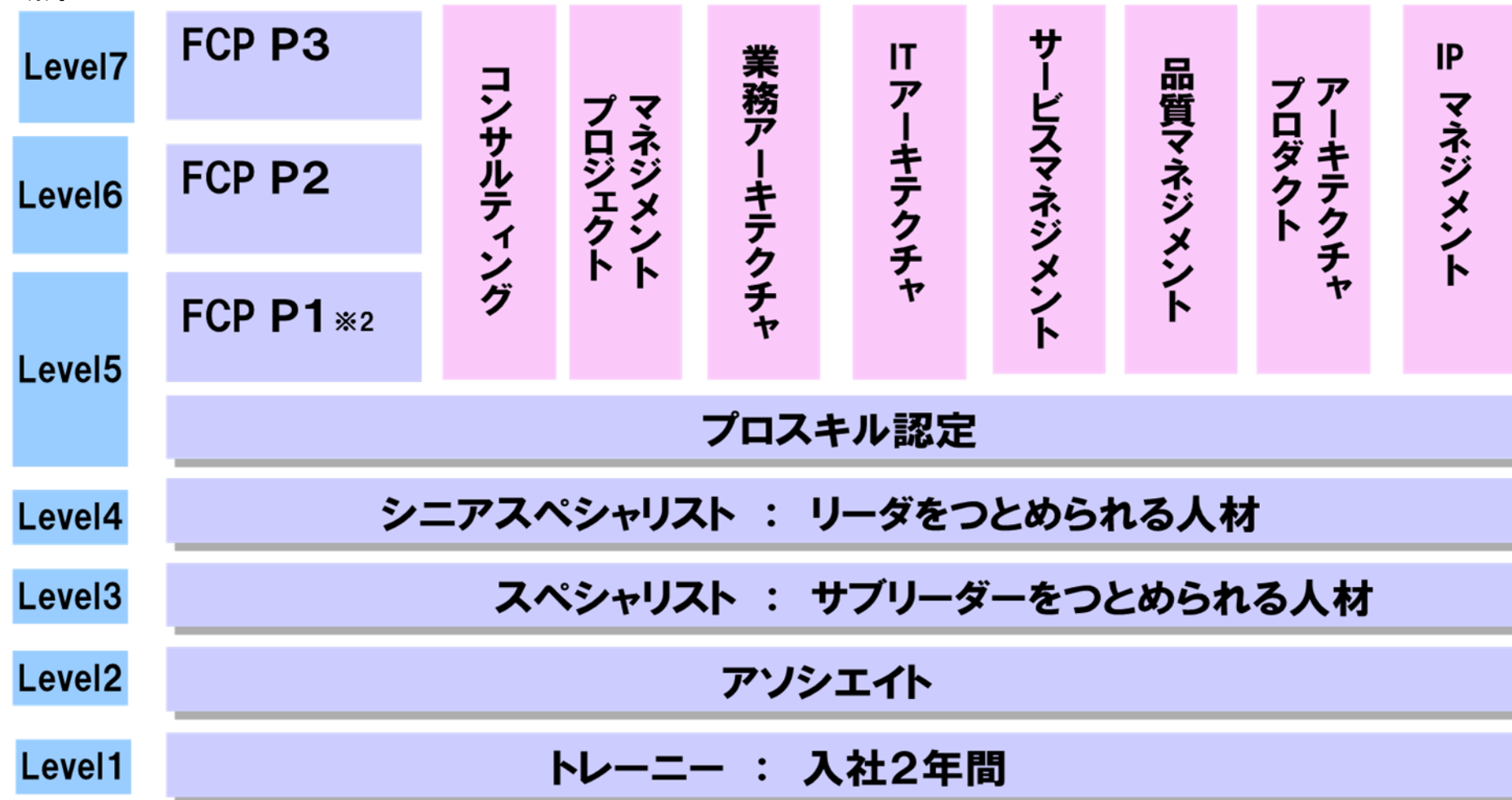
**4. 産学官連携による高度ICT人材育成**

# 1. プロフェッショナルへの計画的な育成

■ FCP(Fujitsu Certified Professional) をめざし、計画的・継続的に育成

【ITSS準拠】

※1



※1 ITSS: ITSkill Standard 経済産業省が2002年に公表したIT関連サービスの提供に必要な実務能力を体系化した指標

※2 P1~P3 : professionalのレベルを1~3段階で設定

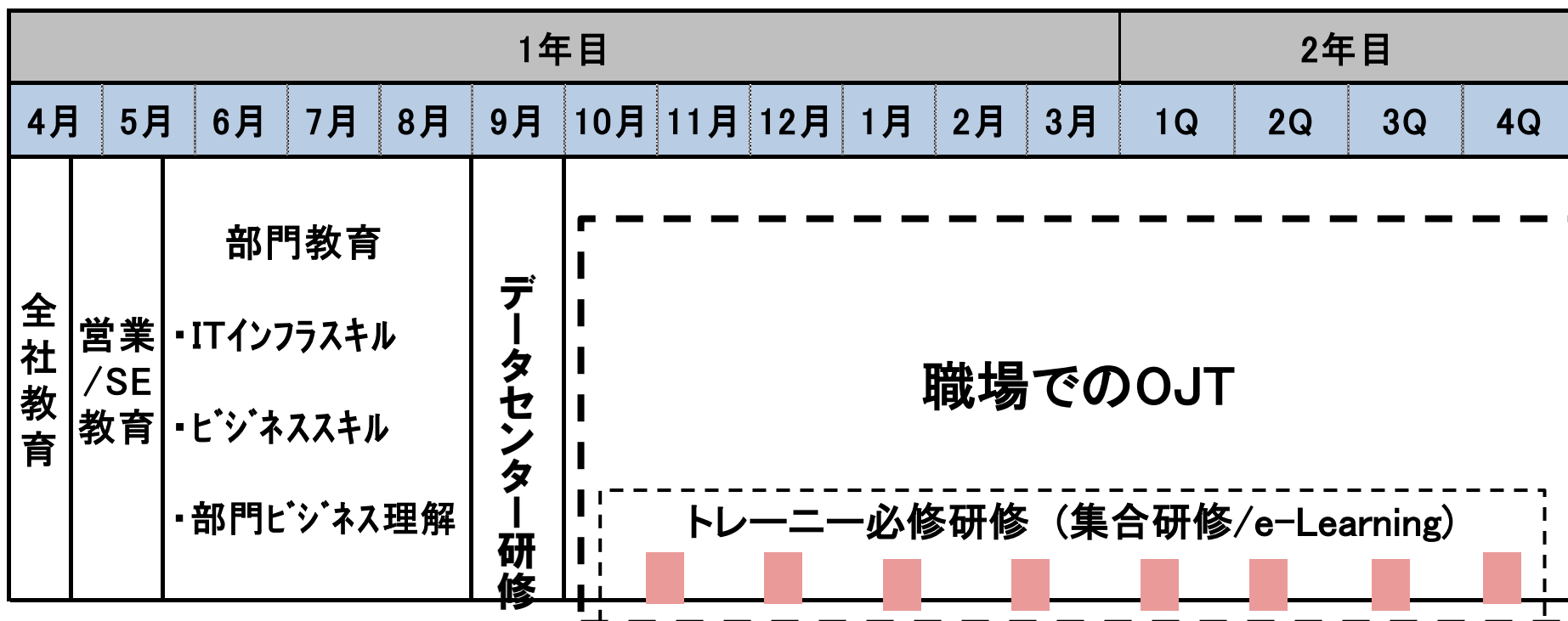
# 新人の育成

## ■ 新人教育を段階的に実施( 全社・部門・各職場 )

- ・企業人としての常識
- ・富士通の価値観の共有
- ・ビジネスを担う人材となるための基礎( 基本動作・マインド・スキル )

## ■ 入社後2年間をトレーニーと位置づけ、計画的に育成

## ■ 上司/トレーナーによるきめ細やかな指導とフォロー



# 2. グローバルで活躍できる人材の育成

## ■ グローバルプレイヤーとして牽引する人材を育成する 各種プログラムを実施

### 【主なグローバル人材育成プログラム】

プログラム	対象	期間	内 容
GKI/A Global Knowledge Institute Advanced Course	部長クラス ※海外からの 参加1/3	半年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップマネジメントとの対話を通じ、経営人材としての視点を涵養する</li> <li>・組織的知識創造理論、体験型WS</li> <li>・個人アクションラーニング(ビジネスコンセプトを創造し、アクションプランをまとめ、発表する) など</li> </ul>
GOLD Global Organization Leadership Development Program	部課長クラス ※海外からの 参加5/6	半年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的リーダシップ</li> <li>・多様性マネジメント</li> <li>・講義とグループワーク など</li> </ul>
国内外留学	入社5~10年	2年	・国内外ビジネススクール(MBAプログラム)への派遣
		4ヶ月	・JAIRSへの派遣
海外 ローテーション 制度	20代後半 ~30代前半	2~5年	・海外グループ会社への派遣(海外での実務経験)

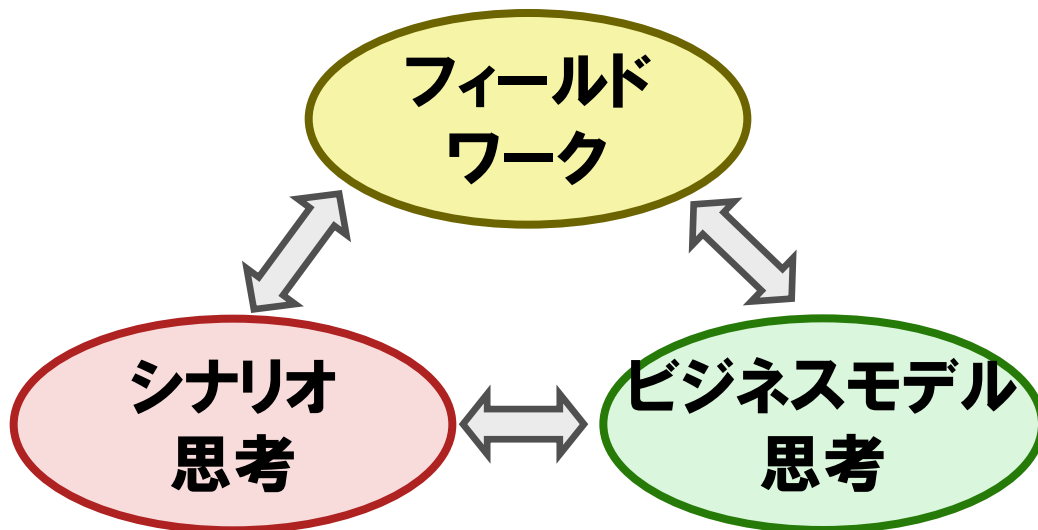
# グローバルリーダー育成を通じた国際社会への貢献

- **正式名** : 一般財団法人富士通JAIMS
  - ・1972年にハワイに設立
  - ・アジアにも重きをおいた教育提供のため、本部を日本に移転(2012年7月)
- **ミッション** : アジア・パシフィック地域の人材開発と知の共創による  
新たなコミュニティー開発への貢献
- **理事長** : 石田一雄 (富士通株式会社 技術顧問)
- **エグゼクティブアドバイザー** : 野中郁次郎 一橋大学名誉教授
- **基幹プログラム** : *Global Leaders for Innovation and Knowledge (GLIK)*
  - ・アジアからイノベーションを起こし、アジアから世界を変える  
ビジネスリーダーを育成
  - ・3.5ヶ月間に4ヶ国(日本・米国(ハワイ)・シンガポール、タイ)で学ぶ、  
理論と実践の総合プログラム
- **修了者数 (累計)** : 留学プログラム:約3,000名  
短期セミナー含め55ヶ国約23,000名

# 3. 新たな価値を創出できる人材の育成

- 現実から発想し試行錯誤を通じて学ぶ行動的な学習習慣を身につける
- フィールドワークからビジネスに展開するしくみも整備しビジネス化の事例もでてきている

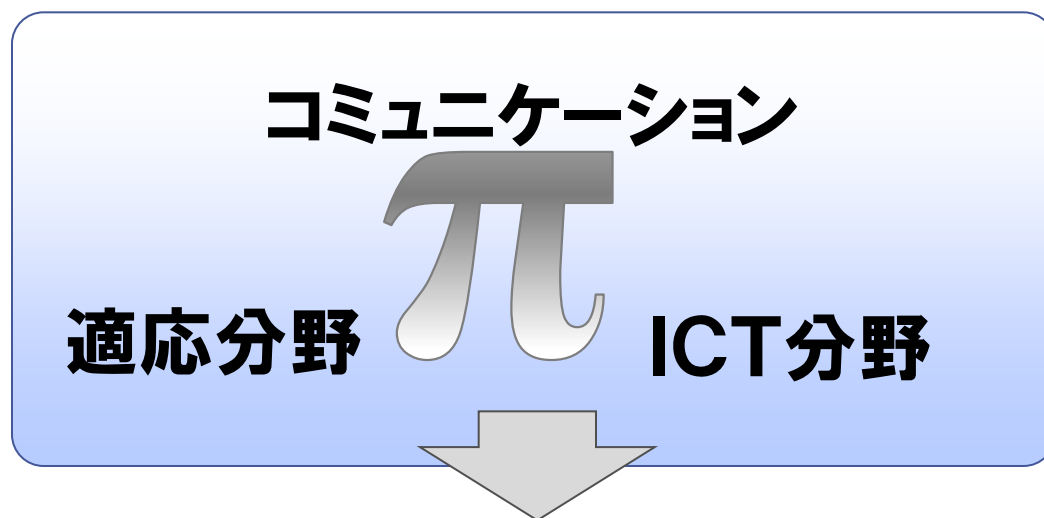
フィールドワーク・現場経験による仮説の創造と  
ビジネスモデル思考に裏打ちされた行動的・実践的な学習



GWP (バングラディッシュ)

# 4. 産学官連携による高度ICT人材育成

## ■ 社会のイノベーションを起こせるπ型人材の育成



- ① CeFIL<sup>(※1)</sup>の高度ICT人材育成支援
- ② IPA<sup>(※2)</sup>の産学連携人材育成加速事業
- ③ JEITA<sup>(※3)</sup>の産学連携パートナーシップ活動
- ④ 次世代IT人材像の策定と育成手法のトライアル

※1: Center for Future ICT Leaders (高度情報通信人材育成支援センター)

※2: Information-technology Promotion Agency, Japan (独立行政法人情報処理推進機構)

※3: Japan Electronics and Information Technology Industries Association (一般社団法人 電子情報技術産業協会)



- ICTを取り巻く環境

- 富士通の人材育成

- これからのICT人材像

- ICTの利活用の進展に伴い、新しいスキルセットが要求される

## 【従来のITサービス】

- 製品技術
- システムインテグレーション力
- チームワーク
- 
- 
- 

## 【これからのICT人材】

- IT力(製品開発、サービス開発)
- コミュニケーション力
- ビジネス力  
(企画力/グローバルな体制づくり)
- 法務/IT財務知識
- 運用マネジメント力
- 
- 
-

## ■ サイエンス志向

- **新たな社会を創り上げていくとき、科学的視点こそが、発想の重要なファクターとなる**
- **世の中の原理原則を学び、それを工夫・活用し、新たなICTを創出する**
- **科学的に納得性のある形で、具体的な理論によって、将来像を継続的に考え、実現していくことが重要**

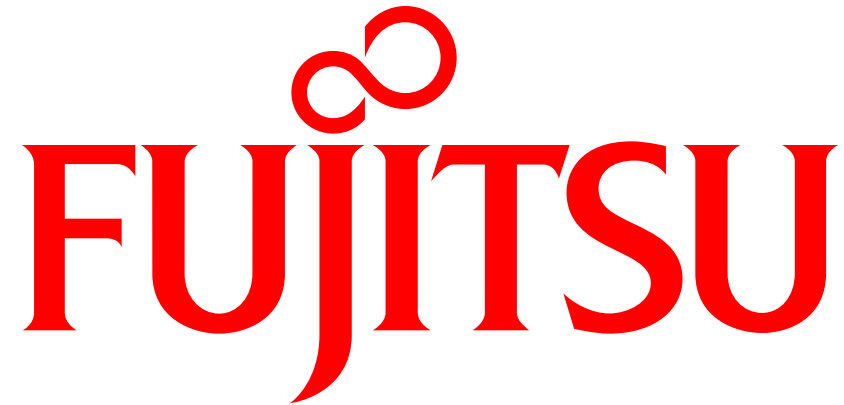
## ■ 最も重要な資本は人材

- **夢を持ち、サイエンス志向・具体的な理論で、社会でイキイキと創造的に取り組む人材の継続的育成が重要**

- **自分のやっている担当分野の中だけで才能を発揮しても将来、ますます回りとのつながりが重要になってくる**
  - ・国や社会とのつながり
  - ・利用する人とのつながり
  - ・現在の技術が培われた過去とのつながり
  - ・報道や市場とのつながり
  
- **これらの「つながり」を理解でき、己の成果の立ち位置がどこにあるのか、聴衆にわかりやすく伝達できるコミュニケーション能力がこれからはますます大切に**

- **国が変われば、物事に関する考え方も変わってくる**
- **ICT技術は世界共通にできたとしても、利活用は変わる**
- **若いうちに世界を経験して、グローバルな視点で物事を考える力をつけて欲しい**

- **単なる精神論ではなく、社会的な閉塞状況の中で、どうモチベーションを高めるかが重要**
  - **失敗を恐れず、より高い目標へチャレンジする**
  - **好奇心を持ち、進んで新しい分野へトライする**
  - **最後までやり抜く**
  - **自ら成長していこうとする気持ち …**



shaping tomorrow with you